

## がんしゅ病（トドマツ）

幼齢造林地に発生。樹勢の衰えや樹体の損傷が誘因となり発生する。幹が陥没し時に樹脂が漏出する。

病斑が幹を一周すると上部は枯死にいたる。

病患部には子のう盤が形成され、湿気によって開き、鮮やかな黄色を呈する。径は大きいもので5 mm程度で、小さなキノコ状。

トドマツオオアブラムシの寄生が原因で発生することもある。

北海道立林業試験場・緑化樹センター



トドマツがんしゅ病